

# 「外傷画像の computer-aided diagnosis システムの研究」 医学情報の研究利用について

重症外傷の患者さんは、胸部や腹部などの臓器からの出血により、命の危険にさらされます。出血源はCTなどの画像検査により同定されますが、短時間で高い精度で診断するには、非常に高い能力を要し、しばしば見落としがあると言われています。今回、外傷の患者さんの画像を、コンピューターを用いて自動的に診断し、出血源や損傷部位を特定するシステムを開発し、その有用性を検討することを目的とした研究を、千葉大学大学院医学研究院が中心となりおこなうこととなり、当院の救命診療科（大阪府救命救急センター）が共同研究機関として研究に参加することになりました。調査対象となるのは、2018年5月8日から2020年3月31日に大阪府泉州救命救急センターに搬送された外傷の患者さんです。

調査項目は、年齢、性別など患者さんの情報の他に、レントゲンやCTの画像データです。これらのデータにおいて、全ての患者さんは匿名化され、お名前や住所など、個人を特定するプライバシーに関する情報が外部に漏れる事は無く、また、何らかの負担が生じる事も一切ございません。収集したデータは、主たる研究機関である千葉大学大学院医学研究院において解析致します。また、研究責任者は、研究に用いられる情報等を適切に保管し、廃棄する際は、匿名化し個人情報に注意して処理いたします。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告させていただく可能性があります。

本研究の調査対象の患者様で、調査に同意されない方はお申し出ください。

このお知らせは2018年5月8日より2020年3月31日まで、りんくう総合医療センターHP内に提示します。

この件に関しまして、ご質問などございましたら、下記の研究責任者に遠慮無く、お訪ねください。

りんくう総合医療センター・大阪府泉州救命救急センター 所長 中尾彰太  
電話番号：072-469-3111